

芭蕉元祿事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十九年七月度 入選句（投稿総数三千六句・小中学投句数二千五百十一句）

### 特選

選者 和田 勝子

とうげこうぼうしのすきまにあせひかる 大垣市 みき かなめ(小二)

今年は、梅雨以前から暑い日が続き、玉の汗が出る日もありましたね。本当に「わたしたちの身体に併せてもらいたいですね。」と思われたことでしょう。

自分のことだけでなく集団登下校のお友だちにも目を向けられたことは素晴らしいですね。中七の「ぼうしのすきまに」の表現がすごいです。本人でなく、友人の身辺の様子「汗が光つてる」という表現もすばらしいですね。とても細かい面までも観ての作句は、すばらしいです。

積乱雲カラスたちが動きだす 大垣市 傍島 成耶(小六)

暑い夏の日にむくむくと出てくる雲です。穏やかな時はいいですね。ところがむくむくが発達し険しい山のようになってそびえてくると大変ですね。その辺りを自然界のカラスは、よく心得ているのでしょね。状態によって自分達の行動を考えているのです。羽根と関係しているのです。自然界の鳥の動きをよく観察してらっしゃるから、カラス達の動きも、平常なのか異常なのかもわかるのです。いろいろな面にアンテナを張り、作句されてみえますね。すてきです。

ぴかぴかとはよぞらにうかぶほたるさん 大垣市 松浦 さざな(小二)

夕方に散歩をされたのでしょうか。まつ暗な夜空に光が浮かぶ様子を見られ、作句されたのです。ね。

「ぴかぴか」と光を出している点滅の様子をよくとらえ、それが何だか浮かんでるように見えたのです。素直に「ぴかぴかとはよぞらにうかぶ」と表現されたところがすてきです。いいですね。

### 秀逸

縁側でならんでたべるかき氷 美濃加茂市 西村 照生(中三)

太陽に近づけ一歩ひまわりよ 美濃加茂市 長谷川 加苗(中三)

自転車をふたこぎすると汗涙 美濃加茂市 坂井 千乃(中三)

手を広げ日の光あびるばしよの木 大垣市 松岡 侑依(小六)

水に浮くスイカ見つけた台所 大垣市 平田 ひなの(小六)

あめんぼが光る未来へつき進む 大垣市 原 康 晟(小六)

妹が日がささす母ふしぎがる 大垣市 えんどう 來花(小四)

たんざくじゃ足りないくらい願い事 大垣市 大橋 結愛(小四)

たうえしてかおがまつくろかいじゅうだ 大垣市 山本 彩世(小二)

揚羽蝶もやい船をかさにして 大垣市 豊田 愛来(小六)

入選

風鈴の音で目覚める夢心地	美濃加茂市	石井	拓巳(中三)
君と見る夜空に浮かぶ日の花たち	美濃加茂市	藤吉	英歌(中三)
涼風が走り去ってゆく帰り道	美濃加茂市	森 ひと	なた(中三)
兜虫大らん闘の決戦だ	大垣市	岡田	尚士(小六)
雨上がりかがやく虹見て心晴れ	大垣市	小俣	桃羽(小六)
もやい船川から見上げる夏木立	大垣市	鶴田	悠斗(小六)
万緑にぼつりとうかぶもやいぶね	大垣市	山岸	由深(小六)
歴史ある昼飯大塚風薫る	大垣市	岩見	颯大(小六)
ばしよの葉夏の日あびてすくすくと	大垣市	江崎	有真(小六)
新緑や川とうだいともやい船	大垣市	大橋	一斗(小六)

入選

ほたるくんげんきでとんでよくひかる	大垣市	さの	るるか(小四)
かさの上雨がびよんぴよんおどってる	大垣市	しみず	けい太(小三)
ねがいごとおもいをのせてどこいくの	大垣市	よしだ	ゆずは(小四)
夏になりわたしのはだもころもがえ	大垣市	えんどう	來花(小四)
砂浜でかみがたなびく海の風	大垣市	木村	妃咲樂(小六)
水まんじゅうつるりとすべるぼくのど	大垣市	増田	遥仁(小六)
日焼して地図のようだねきみのうで	大垣市	森田	悠斗(小六)
真っ青のおかえりなさい海びらき	大垣市	海老	壱喜(小六)
ちちのひにかたもみしたらぱぱにこり	大垣市	伊藤	慶(小二)
緑蔭で歴史を語るばしよぞう	大垣市	大江	菜細乃(小六)

選者吟

雷 烈し学童の傘乱るるる  
勝 子